令和6年度 第2回旭市総合戦略推進委員会（次期総合戦略策定）

議事録【要約】

日時：令和6年9月26日（木）10：00～12：00

場所：旭市役所3階 政策決定室

○出席者

《委員》

鎌田 元弘 委員長	出	柳 明美 副委員長	出	鈴木 正雄 委員	出
加瀬 哲郎 委員	出	林 千夏 委員	出	伊藤 直美 委員	出
川村 崇 委員	出	奈良 暁子 委員	出	石毛 良樹 委員	欠
佐藤 勝彦 委員	出	梅田 和男 委員	欠	宮内 夏子 委員	出
飯田 周作 委員	出	嶋田 明範 委員	出	加瀬 修一 委員	出
花香 真菜 委員	出	西坂 重信 委員	出	水野 竜也 委員	出

《事務局》 旭市企画政策課：柴課長、江戸副課長、角川班長、高木、木内

《支援業務受注者》（株）ちばぎん総合研究所 小松、福田

○配布資料（事前配布）

- ・ 次第
- ・ 資料1 第3期旭市総合戦略骨子（案）

○会議内容

1 開会

- ・ 配布資料の確認
- ・ 欠席委員の報告

2 あいさつ

3 議題

委員長：「（1）第3期旭市総合戦略骨子（案）」について、事務局からの説明をお願いします。

事務局：資料1について説明

委員：都会の方は米不足というなかで、ふるさと納税で米を扱う自治体の納税額が増えたと聞いた。旭市は早場米の地域であり、全国で困っている方がいればJAと連携して協力できると思うが、そのような取組は今まであったのか。

事務局：旭市でもふるさと納税で米の返礼品はありますが、一定の申し込みがあると取扱いが出来ないといった状況にあり量はそれほど出ていません。旭市の返礼品のなかでも米が人気ですが量が出せないのが課題です。農家の方から出していただけると寄付額も増えるため望ましいですが難しい面があるようです。

委員：JA など大きなところとの連携はできないのか。

事務局：返礼品の事業者として JA は禁止されていないと思います。返礼品の事業者として登録されているところが少ないので、そのあたり農協とも話をしてみます。

委員長：ありがとうございます。他にいかがでしょうか。色々な視点からご意見いただきたいです。

委員：DX 推進、デジタル技術という言葉が多く出ているが、導入すれば解決するような、その言葉に若干頼りすぎている印象を受けた。導入には専門的な人材が必要であり、旭市には既にそのような人材はいるのか、それともこれから確保するのか、アウトソーシング的に対応するのか。また、他の自治体などでモデルとなるような都市はあるのかお聞きしたい。

事務局：第 3 期の総合戦略から DX という言葉が多く出るようになりました。総合戦略としては、国が先行してデジタルを活用した取り組みを打ち出していることもあり、市町村も取り入れているという状況にあります。モデル事業として、例えば自動運転バスを運行している自治体などがあり、そういった自治体が先例となって全国に水平展開することが想定されています。市が単独で農業、観光など様々な分野で進めていけるかという難しい部分もあるため、国の制度も活用しながら進めていく形になると考えています。人材の点では、DX 推進ということで、民間から 1 人登用し令和 6 年度から 7 年度にかけて、DX に関する推進計画の策定を進めているところで、個別分野までは至っていないのが現状です。

委員長：ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委員：31 ページの「魅力ある雇用を創出し、安心して働けるまちづくり」の評価指標に観光客入込数が設定されている。他の指標はアンケートなど市で把握したものが基準となっていますが、観光入込数は、県の観光調査となっており県の統計を利用するのか。また、この 1,879 千人という数字は具体的にどのように把握しているのか。
旭市の農業や製造業などの人手として外国人の方がおり、おそらく外国人の人口も増えている。私は匝瑳市で働いていますが、少し前までは中国の方が多く、最近ではベトナム、インドネシアの若い方が増えており、旭市でも同様だと思う。見逃しているかもしれませんが、外国人に関する施策は今後具体的に出てくるのか。

事務局：観光客入込数は市町村が調査したものを県に報告しているため、イベントや施設における元の数字は市町村で把握しています。また、外国人の方も旭市民であるため、外国人の方だからというよりも、当然市民として暮らしやすい生活をしていただきたいと考えています。外国人

の方に特化した施策は現時点では考えていません。

委員長：ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委員：観光 DX としては、新たにシステムを作るのではなく、予約サイトなど既存のデジタル技術を活用して観光業の効率化・活性化を図る取り組みと理解している。県の観光誘客の取り組み開始にあたって自治体への協力依頼があり説明会に参加したが、参加自治体は旭市だけだった。現状、対象となる事業者が少なく登録が進んでいないが、県は来年度も実施することなので、県の動きに合わせて事業者へ働きかけをどのように行っていくかが大事である。総合戦略に DX を盛り込むのであれば、他部署と連携して進めてほしい。観光物産協会では観光や移住に関する取り組みがメインとなるが、CCD プロジェクトも観光の視点からウェルネスツーリズムに取り組んでおり、「旭に来たら“健幸”になれる」というキャッチフレーズで関係人口を増やすことも当然必要だと思う。担当部署が異なると思うが、上手く連携して観光と健康で連携して取り組むことが重要となる。

事務局：DX の推進にあたっては、市役所が声を上げるだけでなく、現場に活用効果を実感してもらうことが大事です。県の予約サイトの話は、現場で進めてもらえたら良いですが、まだ様子見という部分があります。DX は、国が力を入れている分野なので、徐々に事業者にも参加いただけるのではないかと思います。また、庁内の縦割りへの意見をいただきました。今回、総合戦略を策定するにあたって、部署を横断した会議を開催し計画に反映しています。さらに、庁内の横断体制に加えて、地域や民間事業者も含めてまちづくりを進めることが重要であり、その点の情報発信も市として取り組んでいきたいと思っています。

委員：DX に関しては、事業者、業界によって様々な手法があると思います。観光入込調査を見ると、旭市は道の駅が年間 100 万人、サーフィンに年間 5 万人と公表されていますがどのように把握しているのか。また、36 ページの旭ブランド創出プロジェクトの KPI ですが、達成した際に旭ブランドが出来ているかということ、ふわっとしていると感じた。何をもちえてブランドができたか判断するのか、モデル自治体があれば伺いたい。また、意見として、Web サイトの分析情報をみると、アクセス数 1 位は飲食店、2 位は水産などの傾向やニーズが分かります。例えば、レストランで魚を扱えばニーズに合ってきます。売上額を増やす手段や過程も大事だと思いました。つながる地域づくりプロジェクトの KPI として掲げている旭市公式ライン登録者数は積み上げなので目標にはならないと思う。登録者数の増加割合や、効果的な情報発信という観点ではブロックされる割合を 2 割以下に下げるなどがより相応しいのではないかと。

事務局：観光入込のカウントは、道の駅についてはレジ通過者に係数をかけて人数を算出しています。サーフンは、実際に数えているわけではなく、サーフショップへの聞き取りから把握しています。KPI について、農業産出額がブランドに直結しているかということ確かに難しい部分があります。旭ブランドの認知度という具体的な数値の把握は難しいので、ある程度把握できるものとして、売上が増加していることは認知の上昇につながっていると捉えて設定しています。他自治体でも比較しやすい数値を設定しています。LINE の登録者数については、ブロック数と

いう認識がなかったので登録者数としていますが、今後の検討とさせていただきます。

委員長：具体的なお指摘ありがとうございます。それぞれの分野でこういった具体的なお指摘をいただけると有難いです。

委員：38 ページにあるファミリーサポート事業について、「育児」はどの年齢層を対象としているか。壮大なテーマの計画を策定していますが、福祉分野でいうと、サービスを利用する前の制度の狭間の視点が抜け落ちているように感じます。福祉に関わる前の方々をサポートを市はどのように考えているのか。また、育児についても、第3子の保育料無償化などの取り組みがあるが、子どもの見守りが必要な期間という小学校低学年ではなく中学生までなど従来よりも長い期間を想定している方が多いと日々感じている。小学校高学年から中学校にあがるまでの狭間の見守りの支援が抜け落ちていて、その年齢の子どもたちを預かっていただく場所がないとなると、パート職員から正社員に移行できません。企業も働き方改革の努力をしますが、市も育児や福祉の狭間の支援の視点を少し加えて取り組んで欲しいと感じた。

委員長：ありがとうございます。子ども・子育ての分野に関連してご意見いかがでしょうか。

委員：出生と最期の部分は支援が手厚いという意見は同感です。私自身も子どもが3人いますが習い事や部活などの送迎があり、それぞれの送迎で一日が終わってしまうことが多々ある。仕事と育児の両立を目指すところがあるが、実際厳しいと思っている。私は祖父母に頼りながら働いていますが、頼れない方も結構いる。交通の利便性が良ければ、例えば明るい時間はバスで行かせるなど、時間的な余裕も生まれるのでそういったサポートが欲しいと思う。

委員：前回の会議でも学校統合時の交通の便の話をした。子どもたちが遊べる公園がなく、もっと集まれる場所があれば良いと感じている。私自身は両親と同居しているが、子ども3人の予定が重なるとやはり送迎が大変で、小さいバス、乗り合い等でも良いので交通の便が向上すると有難い。

委員長：子ども・子育ての分野で3名からご意見いただきました。事務局からいかがでしょうか。

事務局：ファミリーサポートセンターの対象年齢は、生後6か月から小学6年生で検討されています。送迎の話にもつながりますが、援助を希望する方と援助できる方、両方が登録するのでマッチングできれば送迎のサポートを受けられます。また、デマンドタクシーも実施しています。有料ですが、小学生は片道400円で利用できます。お話を伺っていて、サポートを受けられる祖父母が近くにいることは旭市の良さでもあると思いました。

介護が必要になる前の健康寿命を延ばす取り組みは実施しており今後も継続していきたいと思っています。中学生は学童保育を利用できませんが、利用対象は以前小学3年生まででしたが、現在は希望すれば小学6年生まで利用できるようになっています。

市役所周辺の公園では子どもたちが集まって賑やかです。地域の小さな公園については、遊具の老朽化や土地の手入れが難しいこと、体制が取りにくいこともあって減ってきている現

状があります。

委員：狭間という点で、既存事業があることは理解しており、現在の事業を継続しつつ新たな視点を考えている。旭市でも核家族化が進んでいる中で、旭市は移住・定住に取り組んでいますが移住者は近くに両親がいません。既存の事業を継続しつつ、出生と最期の間の事業を充実していただきたいという趣旨です。ファミリーサポートセンターについては、とても素晴らしい制度だと思っている。学童保育は、全ての小学校で小学6年生までではないと思うので市内全域での展開をお願いしたい。

委員長：学校再編の関連等でいかがでしょうか。

委員：ゾーニングマップを見て干潟地域は取り残されている印象を受けた。学校統合にあたって通学バスが用意される予定ですが、干潟地域のバス停留所の候補になっている萬歳自然公園近くの多目的センターは、公園が手入れされていないので不審者の心配がある。地域にある唯一の公園なのに手入れがされていないので子どもたちが集まれずコンビニ前でゲームをしている環境はよろしくないと思っている。また、39ページの学校・地域いきいきライフプラン推進事業に年3回くらい参加していますが、地域と絡めたいのであれば、保護者だけではなく地域住民の方にも周知すべき。干潟地域は子どもが少ないので学童の定員に余裕があり、保護者の都合で学区外から通っている方もいる。学童の枠に余裕があるにも関わらず、両親・祖父母が働いていても祖父母の家から通っているため利用できないと聞くので、ケースに応じて受け入れてほしい。

委員長：情報共有いただけることがありましたらぜひお願いします。

委員：公園は、子どもたちの遊び場としてだけでなく防災の観点からも地域で整備していくことが重要。災害時は公園に集まろうということで、私が住んでいる地域では毎月地域で清掃活動を行っており、そのような整備も必要と思う。送迎について、旭市は高齢の方の免許返納が進んでおらず、かなり年配の方でも運転している方がいる。シニアカフェで高齢者の方と話していると、92歳で近所の人の送り迎えをしているという方がおり、何か起きたら大変だと感じた。先ほどデマンドタクシーについて話があったが、高齢者の通院のほか、子どもが利用するにしても、帰りの時間も終わってすぐ出て来られないこともあるので、市で何か考えてほしい。介護では、一人暮らし高齢者世帯に対し、民生委員が訪問活動をしています。なかなか接点を持っていないようなので、そのあたりも考えてほしい。学童保育は利用者数がかなり増えていると聞いた。各地域にきちんとした学童施設があれば保護者も安心して働けると思う。

事務局：新たな視点での支援について、移住者については地域おこし協力隊の方が把握している意見も施策に反映したいと思います。萬歳自然公園の手入れについては担当課へ情報共有します。学校再編では、スクールバスの導入にあたって干潟地域で停留所がいくつか検討されていると思いますので計画の中で見ていきます。学校・地域いきいきライフプランについて、今はモデル校での実施で、これから市内全体に広げているところなので、学校によって進め方が異なるか

もしれません。案内されている地域もあるとの事だったので地域の方を巻き込んで子育てができればと思いました。学童の学区外の入所については、制度的には祖父母がいるので帰宅できる場所があると判断されてしまうようです。先般の市議会でも入所要件について同様の質問がありました。公園は避難場所にもなりますので、地域で手入れをしていただいていることは非常にありがたいです。高齢の方は、買い物や通院でどうしても車が必要になるので、免許返納が進まない点は課題です。市は、その解決策としてデマンドタクシーを導入しているので利用促進に努めたいと思います。また、独居の方へ民生委員が訪問しても、なかなか接点を持ってないことについても担当課に伝えます。学童は、基本的に市内全校にあり、小学6年生までで利用を断っていることは多くないという認識です。

委員長：他にいかがでしょうか。

委員：学童の学区外のお子さんについて、以前、私も子育て会議で同様の質問をした際には柔軟な対応をするという回答でした。友人だったので回答を伝えたところ、一度は断られましたが、2回目の申請で入れたようです。学区外でも入所できることを知らない方もいると思うので、個別に相談した方だけ許可するのではなく、すべての方が利用できるように統一した方が良い。

事務局：入所できたということですが、学区外の学童入所について指摘があったことは担当課に伝えさせていただきます。

委員長：他にいかがでしょうか。

委員：基本目標も重点プロジェクトも明確になり、これに向けて取り組むということで全体として完成度が高まっていると感じた。DX、GXには、お金がかかります。ニーズがあるから取り組むのか、これをインフラと捉えてまず形を整えてそれを使っていくかで変わってくると思う。銀行では、来店客が減りアプリ利用が増えています。時代の流れに伴ってアプリの開発を進め、莫大な開発費用とコストがかかっていると聞いている。施策を実現するため、まずは市民が利用できるよう環境を整えることが市のDX、GX化につながると思う。例えば、市の公用車として電気自動車を導入するなどお金がかかります。どこに力を入れていくのか、課題解決のために誰がリーダーとなって進めていくのか、ここが総合戦略の実現とKPIの達成につながると思う。完成した暁には、実現に向けた行動をとっていただきたい。

委員長：他にいかがでしょうか。

委員：重点プロジェクトで交通インフラのなかに道路の拡充があります。私は建設業に従事しており、県の入札案件では4週8休の週休2日制で工事を行いますが、旭市の案件は週休2日制が適用されていません。現場では、働き方改革の流れもあってそのような流れにはなっていますが、今後、週休2日制の導入は考えているか。

事務局：週休2日制については、市として今のところ導入予定はありません。

委員長：ありがとうございます。他に、安心・安全の部分などご意見いかがでしょうか。

委員：消防団として女性消防団員の拡充を図っている。市内で団員確保できるよう市でも PR をお願いしたい。観光客数について、イベントもしくは日常での入込なのか集計手法を教えてください。

事務局：女性消防団員の確保について市としても PR できるように担当課に共有したいと思います。観光入込数はイベントや施設全てを含めての数となります。

委員：病院には現在 2,200 人の職員がおり、人材確保が中長期的な課題となっている。病院独自としても努力しており、夏休みに地域の高校生向けに職業体験を実施したところ 300 人の応募があった。一方、医師は約 300 人いますが、地元での確保が難しいところがある。病院としても努力していますが、市としても魅力向上に取り組んでいただけると、外から来た医師が旭市に愛着を持って残っていただけることにつながると思う。

事務局：中央病院は、旭市の魅力の上位であり、病院の存在により市民の安心・安全が確保できているといえます。働き手の確保は大変ですが、市も協力していきますので、引き続き、旭市の安心・安全な生活に貢献していただければと思います。

委員長：ありがとうございます。最後に、市と県の連携や他市の状況などを踏まえてお話しいただけますでしょうか。

委員：基本目標の 1「魅力ある雇用を創出し、安心して働けるまちづくり」の目標の方向性として観光が含まれていますが、観光客入込数以外の産業も含めた失業者数や有効求人倍率などの指標は考えられないかと疑問を持った。また、観光振興で目標設定するのであれば、観光客入込数で良いのかと疑問があります。観光振興は、来てもらうだけでなく市内で消費していただくことで行政的には市内の経済の活性化により雇用を生み税収効果が目標になってくるのでそういった指標も考えられるのではないかと思う。一方でそういった指標は市民には分かりにくいので入込数と設定することも考え方としては良いかと思う。SDGs の視点を串刺しで盛り込んだということですが、冒頭の全体概要の DX と同様に串刺しで位置付けてはどうか。DX で「デジタル技術による地域課題の解決」と記載されていますが、DX を推進することが目的ではなく、基本目標や重点プロジェクトなどを進めていくための解決手段として DX を活用していくという視点が重要だと思う。25 ページで「DX の推進に取り組む」という記載は DX の推進が目標のように見えてしまうので「課題解決のために DX に取り組みます」という表現の方が良い。

事務局：指標については、他と比較しやすく数字が取りやすいということで観光客入込数を提示しています。今後担当課と検討するなかで、より相応しいものがあれば変更する予定です。SDGs については、施策別の対応表に整理することを検討しています。25 ページの記載については、DX はご指摘いただいた内容で修正を検討したいと思います。

委員長：ありがとうございます。残り時間少ないですが、これだけという方いらっしゃいますか。

委員：子ども食堂について、市内の生産者から、これまで中央病院に肉や卵を提供している。もし、市や個人で子ども食堂を整備するということであれば、農家に声をかけることで、じゃがいも、ニンジン、トマト、キュウリなどの提供が可能だと思う。出荷できないメロンも結構あると聞いている、旭市は食の宝庫ですので困っている方がいれば協力したいと思う。

事務局：現状、市では子ども食堂の整備予定はありませんが、こういった協力をいただけるということは認識しておきます。

委員長：本日はご協力ありがとうございました。事務局は本日のご意見ご要望参考にしていただき可能なところはブラッシュアップしていただければと思います。本日の感想ですが、DXの部分は、大学では「transformation」を変革と訳しています。今までは良かったけれどもその考え方を少し変えてみる。そのような点も含めて縦割りの隙間をどうしたら埋められるのか考え、専門家に伝えるための考え方を体系化して見せることが最初のステップだと思います。DX、GXもそうですが考え方を考える、変革していくことが必要だと感じました。包括協定を締結していますので、大学としてお手伝いできることがあれば活用いただければと思います。

事務局：次回の推進委員会ですが、10月31日（木）を予定しています。内容は、第2期総合戦略の令和5年度の実績と進捗報告をさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

委員長：ただいま、次回の委員会の日程について説明がありました。進捗についてご報告いただけるということでございます。その他、委員の皆様から何かございますか。
無いようですので、本日の議事は以上となります。ご協力ありがとうございました。事務局にお返しいたします。

事務局：本日は長時間に渡り、ありがとうございました。本日いただいた皆様からのご意見を踏まえ総合戦略を策定していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。
以上で本日の会議を閉じます。ありがとうございました。

4 閉会